

## 第64回 小山市内景気動向観測調査結果の概要

### I 調査の概要

#### 調査の概要

##### 1. 調査の目的

小山市の景気動向を的確かつ敏速に観測し、小山市における景気対策の基礎資料とすることを目的に実施した。(平成30年3月末時点における景気動向観測)

尚、この調査は、平成14年6月より四半期ごとに調査している。

##### 2. 調査の期間

平成30年4月12日(木)～4月30日(月)まで

##### 3. 調査方法

小山商工会議所のホームページに掲載した調査票及びFAXにて直接回答する方法で実施した。

##### 4. 小山市内企業 114社を対象 回収数 37社 回収率 32.5%

### II 調査の結果

#### 1. 景気動向の判断

小山市内における景気の動向は、前回調査(第63回調査 平成29年12月の状況)に比べ、企業全体の状況を判断する業況を示す数値(対前年同月)は、『好転』・『やや好転』のプラス評価割合が前回34.2%から14.0%減少し、24.3%となっている。加えて悪化等の傾向を示すマイナス評価割合も、前回21.9%から7.8%増加し29.7となっている。前回、大幅な回復を見せたが、今回はマイナスの傾向を示した。製造業、サービス業においてマイナスの評価が増えており、建設業でもマイナス評価が見られた。

全業種における各項目を見ていくと、売上高に関しては増加・やや増加の割合が、前回46.3%から5.8%減少し40.5%、減少・やや減少のマイナス評価割合は、前回24.4%から0.1%減少し、24.3%となっている。好調であった製造業で少し鈍化が見られ、先行きは横ばいへと転じている。また、建設業においてもマイナスの評価の表れており、先行きが懸念される。

採算に関しては、好転等のプラス評価割合が26.8%から7.9%減少し18.9%となっている。一方、悪化の傾向を示すマイナス評価割合は、前回31.7%から27.0%と4.7%の減少となっている。前回に比べ横ばいの傾向が強くなっており、先行きもその傾向がさらに強くなっている。しかし、前回に引き続きサービス業では厳しい

評価となっており、今後も低下傾向がまだ続くと思われる。

仕入単価においては、下落・やや下落の割合は、前回に引き続き0.0%となっている。一方、上昇・やや上昇の割合は、前回51.2%から5.3%減少したものの、45.9%と依然として高い割合を示している。全業種でマイナスの評価が見られるが、特に製造業では悪化を強く感じており、先行きも価格の上昇を見込む回答が非常に多く見られる。

従業員動向については、不足・やや不足の割合が、前回26.8%から7.9%減少し、18.9%となっている。また、過剰・やや過剰の割合は、前回12.2%から4.1%減少し、8.1%となっている。引き続き全業種を通して人手不足となっている。特に製造業で先行きの不安を感じている。サービス業でも人手不足を感じており、先行きも同様の状況が続くと考えられる。

資金繰りについては、好転・やや好転の割合が、前回17.1%から8.1%と9.0%減少し、悪化・やや悪化の割合は、前回24.4%から5.3%増加し、29.7%となり、2期連続で悪化している。サービス業では前回に引き続き、資金繰りの悪化を感じており、先行きも懸念している。製造業でもマイナスの指標が出ているが、先行きは全業種において横ばいの傾向を示している。

## 2. 景気動向指数(ディフュージョン・インデックス)DI値からの判断

現況判断のDI値からは、平成29年12月と対比すると、仕入単価を除く5つの項目(売上、採算、従業員、業況、資金繰り)でマイナスとなっている。仕入単価はプラスとなっているが、6ヶ月、9ヶ月前に比べマイナスとなっている。管内有効求人倍率は、前回より0.8ポイント減少し1.34となっているが、前年3月に比べ0.3ポイント上昇しており、引き続き労働力の確保が難しい状況にある。今回の調査では、業況が後退しており、資金繰りにも同様の傾向が見られる。今後も若干の回復が見込まれているものの、先行きの売上が心配されており、予断を許さない状況が続いている。